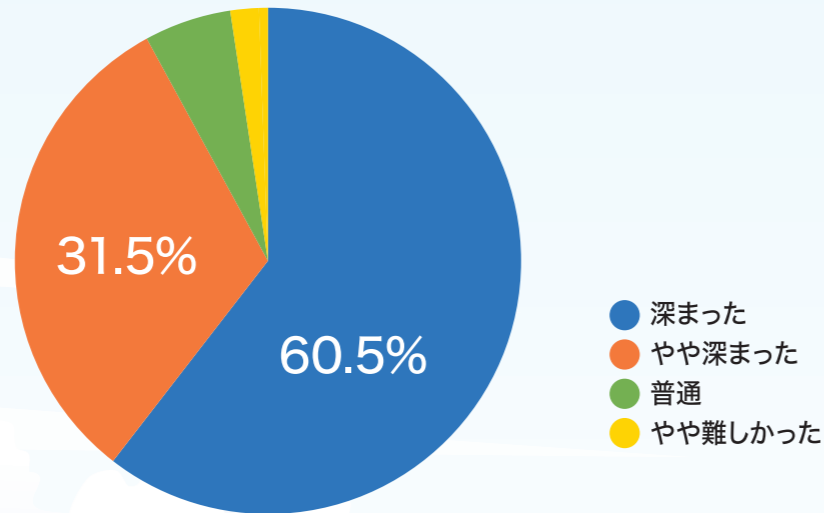


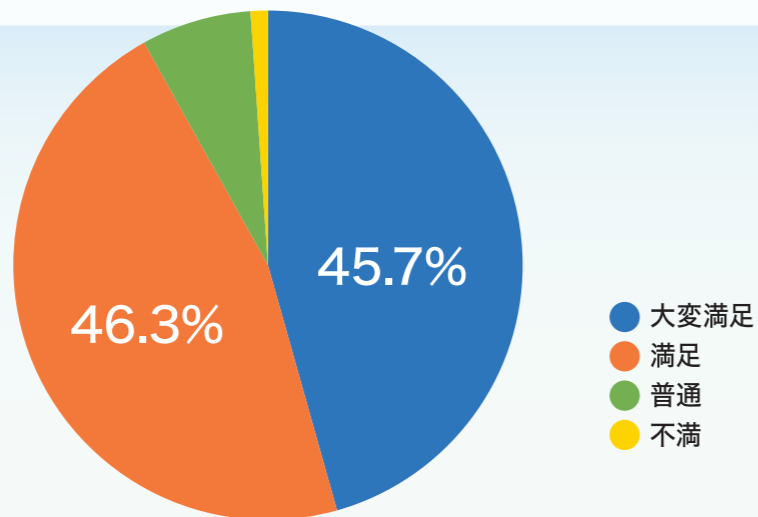
デニー知事トークキャラバンin大東文化大学アンケート

トークキャラバンに参加した約92%の方々が
辺野古新基地建設問題などについて理解が深まったと回答しました。

「辺野古新基地建設問題や沖縄県の
基地負担の現状」について理解は深まりましたか？



今回のトークキャラバンの内容はいかがでしたか？



参加者の声

・正直何も知識はありませんでしたが、国と沖縄県の訴訟の話や
辺野古基地建設の現状について具体的に知ることができた。
・日本の中での沖縄県の負担・世界単位で見た
日本・沖縄の負担(米軍・米基地)がよく分かった。
・知事のお話から研究者のお話、市民活動の方のお話をきくことができ、
多様な視点から考えを深めることができた。

・沖縄の現地の声や米軍視点など奥深い問題を知ることができた。
・本土在住者として普段なかなか触れられない情報を知ることができた。
・実際に知事のお話を聞いてよかった。ニュース等で報道されているものだけでなく
知事から直接聞ける機会はないと思った。
・様々な角度から沖縄について知り、考えることができてよかった。
・あまり身近でない沖縄のことをたくさん聞けてとても知識が深まった。

～普天間飛行場の危険性除去・辺野古新基地建設問題を考える～
デニー沖縄県知事トークキャラバンin大東文化大学

沖縄県の玉城デニー知事が、トークキャラバンで大東文化大学にやってきます！
沖縄の基地問題と基地負担の現状、なかでも、
喫緊の課題である普天間飛行場の危険性除去と辺野古新基地建設問題及び
日米地位協定の問題について、デニー知事と一緒に考えてみませんか？



沖縄県公式Youtubeにて、
トークキャラバンのアーカイブ視聴ができます。
QRコードを読み取って下さい。

※QRコードは(株)デンソーウェブの登録商標です。

https://www.youtube.com/watch?v=j_8zmvVtdiY

会場 大東文化大学東京板橋キャンパス
多目的ホール(東京都板橋区高島平1-9-1)

玉城デニー沖縄県知事による基調講演



沖縄県うるま市(旧与那城村)出身
1991年頃 ラジオパーソナリティ/タレント
2002年9月 沖縄市議会議員選初当選(1期)
2009年8月 衆議院議員選初当選(4期)
2018年9月～ 沖縄県知事(現在2期目)

プログラム

【【第1部】玉城 デニー沖縄県知事基調講演
川名 晋史 大東文化大学教授基調講演
【第2部】パネルディスカッション
(クロストーク、質疑応答)



山本 章子
(琉球大学准教授)



川名 晋史
(大東文化大学法学部教授)



佐藤 敬一
(毎日新聞統括社会部長)



西 由良
(あなたの沖縄・代表)

玉城デニー知事による発言要旨



玉城 デニー(沖縄県知事)

こちらをご覧ください！



沖縄から伝えたい。
米軍基地の話。
Q&A Book



- ・沖縄県は、これまで基地問題に関する冊子や動画を作成して発信しているが、直接皆さんに沖縄の基地問題を説明して、質疑応答の時間も含めているいろいろなやりとりを通して熱を持って伝えることも必要だと考え、トークキャラバンを行っている。
- ・このトークキャラバンのテーマは、まさに「自分ごととして考える」。そのための情報を皆さんに受け取ってもらいたい。賛成・反対という立場ではなくて、「では自分だったらどう考えるかな？」と仲間同士でも話し合っ、対話によって解決策を見出す手法に触れてもらいたい。
- ・日本の国土面積の約0.6%しかない沖縄に、全国の米軍専用施設面積の約70.3%が集中しており、戦後の歴史的背景から過重な負担が現在まで続いている。
- ・「世界一危険な飛行場」とも呼ばれる普天間飛行場は、宜野湾市面積の約24%を占め、市街地中心に位置するため住民負担が極めて大きい。
- ・沖縄県が普天間飛行場の辺野古移設に反対する理由は、主に4つ。
 - ①沖縄の過重な基地負担や基地負担の格差が固定化される
 - ②国内に前例がない規模の大規模工事を伴い普天間飛行場の一日も早い危険性の除去につながらない
 - ③大浦湾の貴重な自然を破壊する
 - ④県知事選挙や県民投票で辺野古埋立て反対の民意が示されている
- ・辺野古埋立てを巡る国との裁判について、沖縄県は、沖縄防衛局の「軟弱地盤が見つかったので埋立工事に地盤改良工事を追加する」という計画変更の申請について、公有水面埋立法に基づき、必要な要件を満たしているかどうかを厳正に審査した結果、不承認とした。
- ・その後、沖縄防衛局が、国土交通大臣に沖縄県の不承認処分を取り消すよう審査請求を行い、国土交通大臣が沖縄県の不承認処分を裁決で取り消すとともに、沖縄県に承認をしろと指示を出した。
- ・しかし、沖縄県は、埋立ての要件を満たしていないことは法律に基づいて判断した結果なので、国土交通大臣に指示を出されても承認できないと裁判所に訴えたが、裁判所は、沖縄県が不承認とした理由に触れることなく、沖縄県は法律上訴える手段はありませんという理由で沖縄県の訴えを退けた。このことは、多くの行政法学者からも疑問が指摘されている。
- ・私自身、これまで多様性や寛容性を尊重し、対話により解決策を導く民主主義の姿勢を政府に求め続けてきた。どうすれば沖縄の基地問題を解決できるのか、本日のトークキャラバンを通じて皆さんも「自分ごと」として考えてみてほしい。

【総括コメント】

基地問題を解決するには時間を要しますが、状況次第では改善が可能です。情報の共有と対話が重要になります。
若い世代には沖縄への関心を持ち続け、自ら考え判断する力を養い、その経験を将来に生かしてほしいと思います。

当日の様子



登壇者 発言要旨



川名 晋史
(大東文化大学
法学部教授)

- ・大東文化大学で国際政治を教えている。沖縄の基地問題についてどう考えたらいいのかわからない。ピンチイン・ピンチアウトという形で、縮小したり拡大したりしながら考えるアプローチを提示したい。
- ・まずはピンチイン。「中国や北朝鮮から近い沖縄は地理的に重要な場所でしょうか？沖縄から基地を移せるわけがない」と学生からもよく言われる。しかし、1950年代、日本にとっての脅威はソ連だったが、そのときに日本の本土から米軍が最初に出て行った場所は北海道だった。
- ・北海道や福岡、フィリピンなど、その当時安全保障上重要とみられる地域から米軍が出て行った例があり、「沖縄の基地は動かない」というのは我々や皆さんのバイアスかもしれない。
- ・米軍は、どこかで失われた機能はどこかで増幅させることによって全体の頑健性を維持している。面全体としては、米軍の戦力・戦略は一致しているということが彼らの考え方だと知る必要がある。
- ・次にピンチアウト。日米地位協定は、日米安保条約・国連軍地位協定とセットになっており、トイレとお風呂が一つの空間にあるユニットバスではどちらか一つだけを改装するのは難しいように、部分改定が難しい構造だと米国は考えている。また、日米地位協定を改定する際は、国連軍地位協定も同様の改定を行うとする規定があるが、これには11カ国との交渉が必要となり、この「二重拘束」が日米地位協定改定の課題。
- ・日米地位協定の改定は難しい。だが、それで諦めるのではなく、過去に米側が地位協定の改定に応じた事例を緻密に分析し、戦略的に交渉する「針の穴を通す」アプローチが必要である。



山本 章子
(琉球大学准教授)

- ・琉球大学で基地問題や安全保障、国際政治学全般の授業を担当している。沖縄の食文化は戦後の食糧難により大きく変化した。米軍が放出した携行食糧缶詰ポークランチョンミートが新しい料理を生むなど食の米国化が進んだ結果、沖縄の平均寿命が短くなったと言われている。
- ・沖縄の県花はデイゴだが、沖縄といえばハイビスカスのイメージがあると思う。これには、米軍統治下を経て本土復帰した沖縄の経済成長の遅れを取り戻すため、日本政府による観光政策として「沖縄のハワイ化」が進められたことにより、ハイビスカスなどの南国の花が大量に植栽され、沖縄の伝統的な風景さえも変容させたという経緯がある。
- ・沖縄はアメリカの文化を吸収し親しんでいる土地ではあるが、同時に考えなければいけないのは、その文化的に吸収しているものの背景には何が合ったかということ。



佐藤 敬一
(毎日新聞
統括社会部長)

- ・基地のあり方を、軍事・安全保障という観点からだけではなく、それを成り立たせるために住民の生活が犠牲になっていることも合わせて考えてもらいたい。
- ・2014～2018年の那覇支局長時代は、翁長知事と政府の対立、普天間飛行場の辺野古移設を巡る法廷闘争、米軍の事件・事故の多発(女性殺害事件、オスプレイ墜落、普天間第二小学校の窓枠落下)など激動の現場取材した。
- ・私が沖縄で教えられたのは、「物事を点ではなく線で見ること」が大切な視点だということ。事件・事故が起きると、政府はその場の現象だけを見て対処しようとするが、沖縄の人たちは沖縄戦を含めた長い歴史の時間軸の中に物事を位置づけている。
- ・2016年の女性殺害事件当時、政府が打ち出した対策はパトロールの強化などであったが、沖縄が求めているのは基地負担の軽減や日米地位協定の改定といった本質。基地に対する地元の抗議の背景には、怒りだけでなく、異常な状況を変えられなかった悔しさや変わらなかったことを許してしまった悲しさなど複雑な感情が入り交じっている。
- ・基地問題は沖縄だけでなく全国の問題であり、沖縄への理不尽な状況から目を逸らしていれば、いつか自分たちの街でも同じことが起きるのではないかと考えることが大切だ。



西 由良
(あなたの沖縄・代表)

- ・東京在住の会社員として働きながら、「あなたの沖縄」を立ち上げて、同世代の90年代生まれが集まって、沖縄にまつわる個人的な体験をコラムとして書く活動を続けている。
- ・日常の笑い話や選挙など、多様な話題を集めているプロジェクトだが、200本あるコラムのうち、基地問題を直接扱ったものは10本のみ。沖縄内外で「基地問題は話しにくい」「言葉にしづらい」と感じる心理的ハードルがある。
- ・基地の問題については、対立や知識不足への不安から発言を抑制してしまう傾向が強い。一方、対話イベントやワークショップで参加者が積極的に経験を語り始めるのを見て、「聞いてもらえる場」があることで言葉が生まれると実感している。
- ・対話とは「話す」以上に「聞き合う場」であり、安心して話せる環境が整えば、基地問題にも少しずつ言葉で向き合えるようになる。今後もみんなの声を聞き合う場をつくる活動を続けて、対話を広げていきたい。